

には、「食べて語ろう会」が今後
するようにとの願いから、NPO法
に上げた。

書籍も出版されている。その一つ、
『ちゃんと食べとる?』（小鳥書房、
の言葉と豊かなレシピ、そして「信
ぶる中本氏と子どもたちがつくり
写真が収められている。

子どもや若者が1日10人から20
からは「ぼっちゃん」に見守られ、
立っていく。昨今、子どもの貧困
を提供する「子ども食堂」の存在
氏の自宅ではこれが30年以上も繰
らが非行や犯罪に手を染める理由
まうのではなく、その子どもが
し、解決のために「できること」
まさに先駆的であり、かつ非常に
提供」は誰でも「できること」で
ごく稀である。今日のように「子
って後押しされ、開設方法のセミ
そうであることを考えると、当
きない中で開始した中本氏の活動
であるといえよう。

活動は、すでに多くの機関・組織
具体的には広島保護観察所長表彰
会委員長表彰（1990年）、法務大
章受賞（2006年）、法務省保護局長
益財団法人「社会貢献支援財団」
、数々の表彰を受けている。ま
市民賞を、今年の4月には吉川英

あり実践家であったペスタロッ
Eなど、適切な養育を受けられな
目気の中で育つことで、困難を乗
ることができると確信していた。
子どもたち自身の自立とつな
この実践はこのペスタロッチャーの
。氏の長年の努力と功績に対し、
を贈呈し、心からの敬意を表す